




# トランポリン

## ～主なねらい～


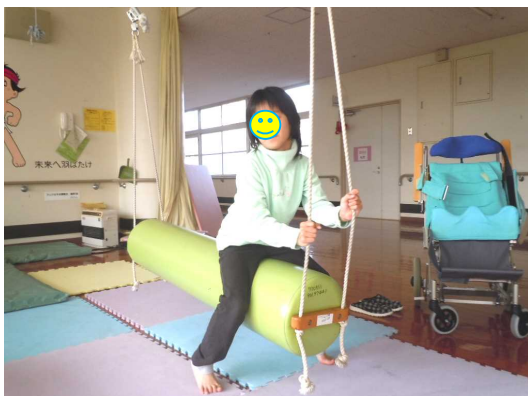
- 重力不安（揺れや回転に対する過敏さ）を改善する
- 原始反射（生後間もなく出現し、成熟とともに自然と消失していく反射）の統合を図る
- 四肢・体幹の筋緊張のコントロールを促す
- 立ち直り反応（頭や体幹を真ん中に戻そうとする反応）や  
平衡反応（身体全体を使って、外力に対しバランスを維持しようとする反応）を促す

学習のめあて例	活動例	留意点など
<p>○上下の揺れを感じ、受け入れることができる。</p>		<p>○背臥位・腹臥位・支座位など</p> <p>★重力不安を示す子どもの場合 ・重心を低くした姿勢で、刺激を少しずつ増やす。 ・子どもの反応を十分に観察しながら、揺れを入れていく。</p>
<p>○頸を起こしたり体幹を保持したりすることができる。</p>		<p>○腹臥位・座位・立位など</p> <p>・大きな揺れを与えすぎないように気をつける。 (姿勢のコントロールが難しくなるため)</p> <p>★座位をとらせるときは・・・ ・板状のものをのせると、座面が安定しやすい。</p>
<p>○座位や立位でバランスをとり、姿勢を保つことができる。</p>		<p>★立位をとらせるときは・・・ ・身体に緊張が入りすぎないように十分に注意する。</p>

# ボルスター

## ～主なねらい～



- 触覚
    - 前庭覚（身体の向きや動き・頭の位置の変化を感じ取る感覚）
    - 固有受容覚（筋肉を使うときや関節の曲げ伸ばしによって生じる感覚）
  - 四肢・体幹の筋緊張のコントロールを促す
  - 立ち直り反応（頭や体幹を真ん中に戻そうとする反応）や  
平衡反応（身体全体を使って、外力に対しバランスを維持しようとする反応）を促す
- } の統合を図る

学習のめあて例	活動例	留意点など
<p>○ 頸を起こしたり体幹を保持したりすることができる。</p>		<p>○ 腹臥位・座位</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 姿勢のくずれがないか、十分に観察しながら、揺れを入れていくようにする。</li> </ul>
<p>○ 腹臥位や座位でバランスをとり、姿勢を保つことができる。</p>		<p>○ 腹臥位・座位など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 揺れは、子どもの反応を見ながら与える。</li> <li>・ 姿勢のバランスがくずれていないか観察する。</li> </ul>
<p>○ 身体を使って、自分で動きを作り出すことができる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人で姿勢を保つことや動きを作り出すことに慣れてきた子どもは、揺れながら目標物を倒すなど、活動のバリエーションを増やすとよい。</li> </ul>

# スイングボード

## ～主なねらい～

- 触覚
    - 前庭覚（身体の向きや動き・頭の位置の変化を感じ取る感覚）
    - 固有受容覚（筋肉を使うときや関節の曲げ伸ばしによって生じる感覚）
  - 四肢・体幹の筋緊張のコントロールを促す
  - 立ち直り反応（頭や体幹を真ん中に戻そうとする反応）や  
平衡反応（身体全体を使って、外力に対しバランスを維持しようとする反応）を促す
- } の統合を図る

学習のめあて例	活動例	留意点など
<p>○前後左右の傾きや揺れを感じ、受け入れることができる。</p>	 <p style="text-align: right; font-size: small;">2010.09.13</p>	<p>○背臥位・腹臥位・抱っこ・クッションチェアなど</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが安心できるよう、姿勢や抱っこの仕方に気をつける。</li> <li>・子どもの反応を十分に観察しながら、揺らすようにする。</li> </ul>
<p>○背中を伸ばしたり頸を起こしたりする力を入れることができる。</p>	 <p style="text-align: right; font-size: small;">2010.09.30</p>	<p>○腹臥位・肘支位・座位など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・揺れの方向や大きさは、活動のねらいおよび子どもの反応によって変えていくようにする。</li> </ul>
<p>○座位や立位でバランスをとり、姿勢を保つことができる。</p>	 <p style="text-align: right; font-size: small;">2010.09.15</p>	<p>○座位・膝立ち・立位など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢のバランスがくずれていないか観察する。</li> <li>・一人で姿勢を保つことに慣れてきた子どもには、揺れながら目標物を倒すなど、活動のバリエーションを増やすとよい。</li> </ul>

# ボールプール

## ～主なねらい～




- 触覚防衛（触覚刺激に対して防衛的・逃避的な反応を示すこと）の改善を図る
- 情緒の安定を図る
- 立ち直り反応（頭や体幹を真ん中に戻そうとする反応）を促す
- 身体像の形成を促す

学習のめあて例	活動例	留意点など
<p>○身体全体がボールに包まれる感触を受け入れることができる。</p> <p>○気持ちを落ち着かせることができる。</p>		<p>○背臥位・腹臥位・座位・抱っこなど</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ボールプールに入ることを嫌がる場合、ボールに触れることから始めていく。</li><li>・指導者が一緒に入り、抱っこしたり手や足をマッサージするなど触圧刺激を与えたりして、子どもの適応を図る。</li><li>・ボールプールに入ることで、興奮したりボールの感触に固執したりしないか観察する。</li></ul>
<p>○ボールプールの中で、身体を動かしたりやりとり遊びをしたりすることができる。</p>		<ul style="list-style-type: none"><li>・ボールプールに入って、やりとり遊びをする、滑り台を滑ってボールプールに飛び込むなど、活動のバリエーションを増やすとよい。</li></ul>

# スクーターボード

## ～主なねらい～


- 原始反射（生後間もなく出現し、成熟とともに自然と消失していく反射）の統合を図る
- 四肢・体幹の筋緊張のコントロールを促す
- 平衡反応（身体全体を使って、外力に対しバランスを維持しようとする反応）を促す
- 眼球運動の働きを促す

学習のめあて例	活動例	留意点など
<p>○動き（加速・減速・振動など）を感じ、受け入れることができる。</p>		<p>○支座位・抱っこなど</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの反応や表情を十分に観察する。</li> <li>・平面・斜面・がたがた道などを移動する。</li> </ul>
<p>○動き（加速・減速・振動など）の中で、全身を伸展させたり頸を起こしたりする力を入れることができる。</p>		<p>○腹臥位・座位など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シグザグに動いたり、斜面を滑りおいたり、回旋させたりして、動きや速さに変化を持たせる。</li> <li>・フープやロープなどを利用するのもよい。</li> </ul>
<p>○手足を使い、自分で移動することができる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・腹臥位で、目標物に向かって進んだり、背臥位でロープをたぐって進んだりするなど、活動を工夫していくとよい。</li> </ul>

# バレーン

## ～主なねらい～

- 重力不安（揺れや回転に対する過敏さ）や触覚防衛（触覚刺激に対して防衛的・逃避的な反応を示すこと）の改善を図る
- 立ち直り反応・平衡反応、保護伸展反応（身体が倒れそうになるとつさに手が出るような反応）を促す
- 身体の緊張をゆるめ、リラクゼーションを図る

学習のめあて例	活動例	留意点など
<p>○バレーンに身をまかせて、身体の緊張をゆるめることができる。</p>		<p>○背臥位・腹臥位</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの反応や表情を十分に観察する。</li> <li>・バレーンの揺れを利用したり空気量を調節したりする。</li> </ul>
<p>○頭を起こしたり体幹を保持したりすることができる。</p>	 	<p>○腹臥位・背臥位・座位・立位</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前後左右に揺らしたり、急に動きを止めたりすることで、保護伸展反応を観察する。</li> <li>・座位で、ボールを前後左右に揺らし、立ち直り反応・平衡反応を引き出す。</li> <li>・背臥位から身体を起こすことができるか、足を着いて座位をとることができるかなど、姿勢の変換に取り組む。</li> </ul>